

会 議 記 録

名 称	中央区基本構想審議会（第5回）	
開催年月日	平成29年1月23日（月）18:30～20:20	
場 所	中央区役所本庁舎10階 第一委員会室	
出席者	委員	竹内誠（会長）、市川宏雄（職務代理）、和気康太、中西史、金井利之、伊藤香織、 榊原美樹、押田まり子、石田英朗、磯野忠、田中広一、志村孝美、渡部博年、青 木かの、杉原慶一、鹿島新吾、古屋勝彦、中野耕佑、小林高光、松岡肇、森山照 明、三田富貴子、市川尚一、大辻正高、山本泰人、岩田享也、大北恭子、立川智 誉、梶原寸真子、松本紗智、今井健、齊藤進、吉田不曇、島田勝敏
	幹事	平林治樹（企画部長）、田中武（総務部長）、長嶋育夫（区民部長）、黒川眞（福祉 保健部長）、望月秀彦（環境土木部長）、田村嘉一（都市整備部長）、林秀哉（防災 危機管理室長）、古田島幹雄（高齢者施策推進室長）、中橋猛（中央区保健所長）、 高橋和義（教育委員会事務局次長）、濱田徹（企画財政課長）、御郷誠（企画部副 参事（都心再生・計画担当））、園田典子（広報課長）、吉原利明（総務課長）
配布資料	中央区基本構想審議会（第5回）次第 中央区基本構想審議会委員名簿 中央区基本構想審議会（第5回）座席表 資料1 パブリックコメントにおける意見と対応（案）について 資料2 パブリックコメントにおける意見を踏まえた修正案（新旧対照表） 資料3 中央区基本構想等に関する答申（案） 資料4 今後のスケジュール 資料5 中央区人口ビジョン（平成28（2016）年1月推計）と実績の比較	
議事の概要	1 開会 2 議題 （1）パブリックコメントにおける意見と対応（案）について （2）中央区基本構想等に関する答申（案）について （3）今後のスケジュールについて （4）中央区将来人口の見通しについて （5）その他 3 閉会	

1 開会

出席者及び配布資料の確認。

2 議題

(1) パブリックコメントにおける意見と対応 (案) について

(2) 中央区基本構想等に関する答申 (案) について

起草委員会市川委員長から、資料1「パブリックコメントにおける意見と対応 (案) について」、資料2「パブリックコメントにおける意見を踏まえた修正案 (新旧対照表)」、資料3「中央区基本構想等に関する答申 (案)」に基づき、パブリックコメントで提出された意見の概要、起草委員会において取りまとめた対応 (案) 及び修正案について報告。

竹内会長 本日は、資料1、資料2及び資料3について、意見をお伺いし、資料3「中央区基本構想等に関する答申 (案)」の (案) を外し、第6回審議会で区長に答申したいと考えている。そのため、実質的な審議は本日が最後となる。また、資料2「パブリックコメントにおける意見と対応 (案)」についても同様に (案) を外し、中央区のホームページに掲載し、区民の皆様にお知らせする。資料1から資料3について、意見等をいただきたい。

志村委員 資料3「中央区基本構想等に関する答申 (案)」に3点述べさせていただく。

1点目は、築地市場の移転問題についてである。第4回審議会から現時点までで、移転の目途が立っていない状況であるため、資料3「中央区基本構想等に関する答申 (案)」の5ページ中段の「歴史に幕を閉じようとしており」という部分を、「幕を閉じた場合」と変えることを提案する。

また、48ページに「市場の移転を予定している」や「立地特性を踏まえて交通結節機能とともに」という表現があるが、移転が未確定な中では表現を変える必要があると思う。「築地においては、世界に誇る日本の食文化の発信拠点として整備していくことが重要です。」もしくは「市場移転が実施された場合は、立地特性を踏まえて交通結節機能とともに」という表現がふさわしいと思う。

続いて、49ページに築地地区に関する文章として、「食のまちとしての活気とにぎわいを継承していく必要があります」とあるが、5ページには「継承・発展させていくため」と表現しているので、49ページの表現も「食のまちとしての活気とにぎわいを継承・発展していく必要があります」と変えてはどうか。

2点目は、資料1「パブリックコメントにおける意見と対応 (案) について」のNo. 8とNo. 9に関わることで、現在の基本構想の検証が含まれていない、総括をされるべきというコメントがある。総括をしていくということも大事ではないか。具体的には、資料3「中央区基本構想等に関する答申 (案)」の48ページ「(イ) 世界に発信する魅力的なまちづくり」の第2段落で、「こうした有形・無形の歴史的遺産を活用しながらまちづくりを行う」を「こうした有形・無形の歴史的遺産を活用しながら抑制的なまちづくりを行う」と「抑制的」という文言を入れてはどうか。この反映を踏まえて、資料3の5ページの下から3行目を「そのため、中央区は現状と課題をまとめた上で、これらの時代の変化に合わせて」とするか、もしくは、「新たな基本構想を現状と課題をまとめた上で策定することにより」とし、現行の基本構想を踏まえたまちづくりを進めるという方針を新たな基本構想に出したらどうか。

3点目は、資料1「パブリックコメントにおける意見と対応 (案) について」の11ページのNo. 41で、違法民泊対策を追記してほしいという意見についてである。ここでは、資料3「中央区基本構想等に関する答申 (案)」の35ページの「(イ) 生活衛生の向上」と44ページの「(ウ) マンション支援」が該当ページとして挙げられて

いるが、51ページの「(イ) 来街者受入環境の充実」に反映したらどうか。2行目の「インバウンドなどの地域経済の活性化や違法民泊対策とともに」と、ここで違法民泊対策を入れれば、パブリックコメントの意見も反映できると思う。

竹内会長 細かい文言調整はあるかもしれないが、委員から出された意見の取り扱いをどうするのか、その方向性について議論したい。

市川輝樹議員 まず、資料3「中央区基本構想等に関する答申(案)」の5ページに「継承・発展」とあるが、49ページでは「継承」となっているということについては、整合を図るべきであると思う。

次に、現在の基本構想の検証を行うべきだということであるが、審議会ではこれまでの取組と課題を踏まえて審議を充分に行い、その上で答申(案)を取りまとめているので、その必要はないと思う。

次に、築地市場については、資料1「パブリックコメントにおける意見と対応(案)について」の4ページにあるとおり、「築地市場の移転は延期されたものの、現時点で東京都は移転の方針を正式に変更していない。」ことを前提として書いている。

次に、資料1「パブリックコメントにおける意見と対応(案)について」の11ページのNo. 41の違法民泊の話は、「△区において今後の計画・取組の参考とすべきもの」と考えているため、細かいことは書かない前提であるが、今後は検討するとしている。

次に、資料1「パブリックコメントにおける意見と対応(案)について」の15ページ、16ページのNo. 63、No. 64、No. 65の意見を踏まえて、資料3「中央区基本構想等に関する答申(案)」の48ページ「(イ) 世界に発信する魅力的なまちづくり」の第2段落目の「こうした有形・無形の歴史的遺産を活用しながらまちづくりを行うことにより、魅力的な都市機能と景観形成を図り、国際都市東京の中心にふさわしい風格あるまちにしていくことが重要です。」のまちづくりの前に「抑制的な」を付けるべきという意見であるが、抑制的で魅力的な都市機能ということが理解できない。魅力的な都市機能のためには、当然、積極的な行動と抑制的な行動が入っているため、敢えてここで抑制的と付ける意味はないと思う。資料1「パブリックコメントにおける意見と対応(案)について」の15ページ、No. 63、No. 64の超高層ビルの建設を規制すべきという意見を受けて「抑制的な」という言葉を付けたいとのことだと思うが、超高層ビルを建てることは悪いことばかりではなく、中央区の土地の特性もあり、単一的に超高層だからいけないということではないと思う。

竹内会長 築地市場については、都の政策も変わっていないと言っても、断定的な言い方はやめている。答申を出す2月までどのようになるかわからないため、現実とあまりにも違いが出る時には、少し表現を変えなくてはいけないだろうと思う。ここで決めるのではなく、状況を見たいと思う。東京都は移転を諦めているわけではないが、今後展開があれば、表現を変えなければならないという含みを私は持っている。

志村委員 築地市場につきましては、竹内会長の方針で良いと思う。

現基本構想の総括については必要と感じている方がいるということ踏まえると、もっと議論できればよかったと感じる。

違法民泊対策については、資料3「中央区基本構想等に関する答申(案)」の51ページのインバウンドの対応として、この問題を取り上げ、オリンピックで終わらずに、いわゆる国際都市として、安心して外国の方が来られる対策が必要ではないかという意見である。

竹内会長 その他の意見をお願いしたい。

松岡委員 資料3「中央区基本構想等に関する答申(案)」の49ページ「3 輝く個性とにぎわいが躍動を生み出すまちを目指して」の「(ア) 都心商業の推進」に、昨年10月に

中央区が区道を提供して整備した観光情報センターについて記載していただくと、オリンピック・パラリンピックを迎える諸外国の方にも、また、全国の観光客の方に対しても、「都心商業の推進」が発揮されるのではないかと思います。

事務局 資料3「中央区基本構想等に関する答申(案)」の51ページの「(イ) 来街者受入環境の充実」の第2段落に観光情報センターについて記載させていただいている。

松岡委員 了解した。

竹内会長 その他の意見をお願いしたい。

青木委員 言葉についてである。プロアクティブ・コミュニティという言葉は「パブリックコメントも含め、さまざまな意見を伺い、分かりにくいとなったらどうするかという議論も考えて、まずは大胆に出してみた」ということであり、分かりにくいというパブリックコメントは出ていなかった。他方で、ソーシャル・インクルージョンという言葉を入れてほしいとする意見が出て、パブリックコメントにも出ている。それに対する答えが、「区と区民のまちづくりの憲章であることから、区民にとって分かりやすい言葉で表現することが重要であると考えています。そのため、『ソーシャル・インクルージョン』という用語は用いない」となっている。ソーシャル・インクルージョンという言葉を使わないということに対してプロアクティブという言葉はどうするかを改めてお聞きしたい。

市川議員 発言の趣旨は、プロアクティブ・コミュニティという言葉を使うことに疑問があるということの良いか。

青木委員 ソーシャル・インクルージョンという言葉が分かりにくいので使わないという理由でありながら、プロアクティブ・コミュニティを使うことに矛盾を感じている。

市川議員 プロアクティブ・コミュニティを使うのであれば、ソーシャル・インクルージョンも使っても良いのではないかという意見と理解して良いか。

青木委員 そのとおりである。

市川議員 それでは、どこにソーシャル・インクルージョンという言葉を使えば良いか、お考えをお聞きしたい。

青木委員 資料3「中央区基本構想等に関する答申(案)」の26ページ、27ページの辺りだと思う。

市川議員 ソーシャル・インクルージョンは大きな言葉であり、「(1) すべての人々が健康で安心して暮らせるまち」、「(2) 誰もがいきいきと笑顔で暮らせるまち」、「(3) 互いに尊重しあって心豊かに暮らせるまち」の全てがソーシャル・インクルージョンを表すと考えている。個別にこの部分ということを表す言葉ではないと考えるが、ソーシャル・インクルージョンをどのくらいの大きさで考えているのか。

青木委員 タイトルにしても良い大きさであると思っている。例えば、「1 一人一人の生き方が大切にされた安心できるまちを目指して」の「(1) すべての人々が健康で安心して暮らせるまち」もソーシャル・インクルージョンになると思う。

市川議員 「1 一人一人の生き方が大切にされた安心できるまちを目指して」がソーシャル・インクルージョンである。このタイトルでソーシャル・インクルージョンが説明できているので使っていない。プロアクティブ・コミュニティは説明すると長くなるので使っている。同じ片仮名語であるにもかかわらず、片方は使って片方は使わないとの意見は分かるが、中身的には違っている。第3章の1は全部がソーシャル・インクルージョンを語っている。

青木委員 強調したいのは、ソーシャル・インクルージョンよりもプロアクティブ・コミュニティの方である。基本的な方向性の中の「中央区スタイル」という言葉は非常に素晴らしいと思うが、この言葉と共に、プロアクティブ・コミュニティという言葉も必要なのだろうか。

- 市川輝類委員 今までとは異なり、これからは自分たちで積極的に決めていくということで使っている。中央区スタイルは全体にかかっている、コミュニティだけではない。このプロアクティブ・コミュニティは狭い言葉であるが、ソーシャル・インクルージョンは全体にかかっていると思う。ソーシャル・インクルージョンは人によって色々な定義があるので、使い方が難しい言葉という印象を持っている。言葉の定義が社会全体で固定化されてきているということであれば、どこかに使うことも考えられるが、その辺についての意見はいかがか。
- 青木委員 ポイントはプロアクティブ・コミュニティという言葉の方である。日本ではまだ定着していない言葉である。意味がよく理解されていない中でこの言葉を入れることは時期尚早ではないか。
- 市川輝類委員 プロアクティブ・コミュニティは本文の中で説明をしている。中央区は一步進んだことをしているという心の表れだと思っており、使うことで積極的であることを示すという位置付けだと思っている。
- 私はソーシャル・インクルージョンを広く捉えているが、多くの人は狭い意味で考えているはずで、そのミスマッチが気になっている。パワフルな言葉ではあるがどこで使うかである。プロアクティブ・コミュニティはあまり使われていないけれども、明確な定義があるため、比較するのはどうかという印象である。
- ソーシャル・インクルージョンは使い方をどうするかは相談したいと思う。事務局の意見はどうか。
- 事務局 プロアクティブ・コミュニティは、本文中ではなく、基本的な方向性ということで、これまでの中央区で取り組んできたコミュニティの形成から、20年先を見据えた、もう少し違う形という意味で標語として使っている。また、言葉の意味は注釈を付けて説明し、分かりにくさを解消していると認識している。
- ソーシャル・インクルージョンの取扱いについては、会長、委員長と検討させていただければと思う。
- 山本委員 言葉には時代の流行り廃りや、定義付けが20年経った時に残っているかなどがあり、その時の時流に乗った言葉がいつまで永続するのか不安を感じている。積極的なコミュニティづくりは重要だと思うので、何らかの強調をしなくてはならないと思うが、プロを付けなくてもよいのではないか。「アクティブ・コミュニティ」といえば、20年経っても汎用性を保ちつつ、趣旨は十分に表現できるのではないかと感じた。プロを付けるとアクティブな中でも特別な意味合いがあり、人々に思いを躍起させる要素が含まれているようである。今はあまり一般的ではないことを考えると、アクティブ・コミュニティと言って、強調すれば、時間の変遷があっても貫き通せると思う。
- もう1点、言葉の問題として、通信環境の「通信」は、電話で連絡を取ることをイメージするが、例えばWi-Fi環境のようなことであれば、「情報環境」の整備の方が、今の時代でも将来的にも広い意味での情報のやり取りを感じさせる言葉になると思う。
- 市川輝類委員 通信環境の方は、何か違う言葉の提案があればあわせて検討をしたい。
- 山本委員 情報環境の方が、少し未来性を感じさせるのではないかと思う。
- 市川輝類委員 通信環境はいわゆるインターネットを含んだ、第4世代を言っているのだから、情報環境ではないのではないか。しかし、通信に代わる良い言葉があれば考えてみたい。
- プロアクティブ・コミュニティについての懸念は了解した。言葉をどうするか考えてみたい。私は20年後にも有効だと思うが、組み合わせをうまく考えたい。
- 志村委員 プロアクティブ・コミュニティは、内容から見れば、地域力でもいいのではないかと思う。3つ目の基本的方向性として、「未来を切り拓く力を育む『創造の場』の

構築」とあるので、こちらも『地域力』の確立」とすれば分かりやすいのではないかと思う。

市川議員
竹内会長
松本委員

地域力は使い古されていて、他の区でも使っている。

その他の意見をお願いしたい。

基本的な方向性の3番目の「誰もがあこがれ、住みたい・働きたい都心の実現」というところを再考していただけないかと思う。既に住んでいて、働いている人がそう思うかには疑問がある。外部の人が住みたい、働きたいと思うようなまちを求める気持ちをあこがれという言葉を選んで表現したと理解した。そうであれば、基本的方向性の1, 2, 4, 5を見ても、中央区民、区内で働いている人などの中からの視点ということで合わせた方がいいのではないかと思う。最終的には将来像を目指すものと思うが、外側からではなく、中側からの視点をまとめていくのが、基本的な方向性ではないかと感じている。3番目は「住む人、働く人、誰もが誇れる都心の実現」としてはいかがか。7ページの将来像に「誇りを持てる都心『中央区』をつくっていきます。」と書いてあるので、重複することに懸念はあるが、実際に区に関わっている人が誇りを持って、よりよいまちになるよう行動していくということが一つの方向性ではないかと思う。それがひいては周りの方からあこがれを持たれるようになり、全体的な文章としては通じるのではないかと思った。

市川議員
松本委員
市川議員
榊原委員

結論から言うと、「あこがれ」よりは「誇れる」が良いということか。

簡単に言えばそうである。

他の人の意見も聞きたいと思うがいかがか。

私自身は松本委員の意見に全面的に賛成である。「あこがれ」はあくまで外から見た視点という違和感があった。一人ひとりが輝くなど、そのような表現もあるかと思っていたが、誇れるという言葉はとてもいいのではないかと思う。

竹内会長

「あこがれ」については、起草委員会で随分議論をしたが、これに代わる言葉がなかなか出なかった。「あこがれ」は逆に古臭いイメージがあったので、「誇れる」は良い案だと思う。

松本委員

このままだと視点が外部になってしまうので、「住む人、働く人、誰もが誇れる都心の実現」としてはいかがか。

市川議員
松本委員

「住む人、働く人、誰もが誇れる都心の実現」は座りが良い。

7ページの「1 中央区の将来像」に「誇りを持てる」と書いてあるので、近い文章の所で入っているのはどうかと懸念した。将来像を、方向性の目指すゴールと捉えると、あこがれに近いニュアンスを入れても良いとも思った。

山本委員

「誇れるまち」は私も好きである。住みたい、働きたいとなると、外から新しい人にも中央区に行ってみたいという気持ちを引き出すまちであるという誘いがある。一方、住む人、働く人が誇れるまちと言うと、インサイドの皆でよくなるというニュアンスに聞き取れる印象がある。

市川議員

あこがれは住む人だけではなく、外から来たい人も必ずいるであろうということである。東京都で人気のある区は港区であるが、素晴らしい中央区を知ってもらいたいということもあった。今働いている、今住んでいる人だけではなく、新しい人にも行ってみたいという気持ちを引き出したいという部分でもある。そのため、今のニュアンスでも良いのではないかという意見かと思う。

松本委員

住む人たちが現状に満足しているだけではなくて、今後につながる周りの人たちも巻き込んだ表現にした方がいいということは共感する。将来像に「住み・働き・集う」とあるが、これは一時的な、観光客などをイメージしているのか。

竹内会長

買い物などもある。

松本委員

そうすると、「誰もが」は強い印象もあるとともに、ぼやけている印象もある。限

定的になってはいけなから広げること分るが、全体を巻き込むというもう少し良い表現はないか。

岩田委員

私個人は「誰もがあこがれ、住みたい・働きたい」はいいと思っている。PTA 連合会という立場では、学校の授業などで、中央区に住んでいるという「誇り」は普段からあるという前提で話をする。中央区はやはり良いと思ってもらえるように動いているので、私個人はこの言葉がしっくりきている。

古屋委員

中央区では月島地域を中心に大変な人口増がある。他の地域から見れば、あこがれかどうかは分からないがそこへ住み、仕事に通うことを希望して入ってきていると思う。日本でここまで人口が増えている地域はなく、特別である。若い人を含め生産人口が増えているのは世界的にも中央区は特例だと思う。ある意味のあこがれの一つの形態かと思う。

中央区にとって、オリンピックは大変なイベントだと思う。商工会議所で23区の責任者がオリンピックの話をして、オリンピックに直接つながってくるのは、中央区、羽田空港を持っている大田区、虎ノ門から選手村との間で公共交通が整備される港区、この3区位である。そのためこの数年間の間に、インフラ整備が進むことも特例である。付随する色々な問題もあるが、将来をにらんでもプラスだと思う。

私は後期高齢者で区外在住であるが、中央区在住の同年代と話をする、中央区は高齢者支援も充実しており、立派である。更に今後そういうことがあるとすれば、皆から見て、やはりここへ行きたいということになるのではないかと思う。

松本委員

資料3「中央区基本構想等に関する答申(案)」の8ページの「(3) 誰もがあこがれ、住みたい・働きたい都心の実現」を見ると、中の人をより良くしていくことが少し強いと思う。先ほど「住む人、働く人、だれもが誇れる都心の実現」と申し上げたが、そこを住みたい人、働きたい人、とすると、逆に今現在住んでいる、働いている人の話がどうになってしまうのかという不安はある。中に住んでいたり働いていたりする人が魅力的であるから、その区が魅力的であこがれる存在になっていくのだと思う。自分たちが人を呼んでくる雰囲気醸し出す人間であったり、建造物であったりすれば、結果としてあこがれを抱くのではないかと思う。

全体的なバランスということで見ても、基本的な方向性では中をどうするかということを書くべきではないかと思う。外からの目線も意識しなくてはいけないのであれば、それは最終的な将来像というところにまとめて書くべきであると思う。

伊藤委員

私もあこがれという言葉にずっと違和感があった。1つは表層的な感じがすること。それから、昭和なイメージのある言葉だと思っていた。うまい言葉が出せず仕舞いで今日を迎えたが、例えば、「住み、働くことを誇れる魅力的な都心の実現」と言うと、「誰もが」が抜けてしまうが、住み、働くことを誇れると言えば、今いる人もこれから住みたい、働きたい人も辛うじて入るかと思う。ただし、「(2) 歴史と伝統を継承し、多彩な魅力があふれる美しいまちを形成」に「魅力」とあるので、そこは重複してしまう。

竹内会長

将来像の「輝く未来へ橋をかける——人が集まる粋なまち」の内容は将来像の全体を言っているが、それを具体的に言っているのが、「2 将来像の実現に向けた基本的な方向性」であるため、ある部分で重複してもそれほど気にしなくてもいいのではないかと思う。この件については、私と起草委員会の市川委員長で知恵を絞ってまとめさせていただきたい。

その他に意見をお願いしたい。

三田委員

安心部会の最初の案では、男女共同参画という言葉が使われていたり、男性が、女性がという表現で記されていたりしたが、20年後は死語になるという意見があった。性別や年齢を超えた共生社会を目指す内容に変わってきたと思う。

それを踏まえて、資料3「中央区基本構想等に関する答申(案)」の15ページの「② 時代の変化に対応し、最先端の都市型産業として進化する環境づくり」で、「女性や若者の起業を支援し、地域産業の活性化も図っていきます。」と女性や若者に限定した表現になっているのが疑問である。

また、38ページで「③ 高齢者が住み慣れたまちでいきいきと暮らし続ける環境づくり」の「(ア) 社会参加と生きがいづくり」のところで、「一度退職した後に起業したり、(中略) 活躍できる地域づくりが求められます。」とここでも起業について触れているので、女性や若者と限定していいか疑問に思う。

それともう1点、30ページ「(3) 魅力ある都市機能と地域の文化を世界に発信するまち」では、BRT と地下鉄新規格路線整備という文言になっているが、47ページでは、BRT に「(バス高速輸送システム)」という説明が書きがあり、地下鉄については「地下鉄新線」となっている。同じ表現にした方がいいのではないかと思う。

竹内会長

2点目については言葉の整合性を図るため、修正したい。

1点目についてはいかがか。

吉田委員

趣旨を踏まえて、相談させていただく。

市川輝類委員

表現を改めるとすると、どのような表現が良いか。

三田委員

定年になった方々に対しても起業支援をする必要があるのではないかと思う。

市川輝類委員

若者と女性と高齢者とすると、全部ということになってしまうため、表現については事務局で検討いただきたい。

梶原委員

資料3「中央区基本構想等に関する答申(案)」の15ページで「経営基盤の安定した足腰の強い中小企業」の足腰の強いという表現に違和感がある。

竹内会長

検討させていただく。

松本委員

前回、子ども関連の意見を出させていただいた。その中で、プレディと児童館について、「行政が手を伸ばさなくてはいけない部分もあるため、書き加えようと思う」という回答をいただいたが、どこに加筆したのか見つけられなかったので、お教えいただきたい。

吉田委員

そういった取組を行うという方向性を確認させていただいたが、答申1の基本構想には書き加えていない。

松本委員

現状の文章の中で、そういったことを推し量るということか。

吉田委員

今後の計画の中でそういった取組を進めていくということである。

松本委員

了解した。

竹内会長

本日の意見を踏まえ、「答申」として取りまとめ、次回の第6回審議会において区長に答申するとともに、「パブリックコメントにおける意見と対応」を区民の皆様にお知らせすることを考えている。

本日いただいた意見は起草委員会の市川委員長と検討し、「答申(案)」及び「パブリックコメントにおける意見と対応(案)」に反映したい。本日の意見の反映状況がわかる資料を事前にお送りして、皆様に確認いただいた上で、事前に了承をいただきたいと考えている。そして、第6回審議会で正式に(案)を外す手続きを行い、区長に答申したいと思う。

このようなことを前提として、本日の意見の反映は、私に一任していただきたい。

(一同異議なし)

竹内会長

そのように取り扱わせていただく。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局から、資料4「今後のスケジュール」を説明。

(4) 中央区将来人口の見通しについて

事務局から、資料5「中央区人口ビジョン(平成28(2016)1月推計年)と実績の比較」を説明。

(5) その他

質疑等なし。

3 閉会

竹内会長の閉会宣言により終了。